

## 令和4年度 宝塚市立看護専門学校 自己評価結果

本校は、宝塚市という地域の中に根差した高等教育機関として、教育の水準向上を目指し、教職員による学校評価を実施しています。地域および学生からの期待に応え得る学校でありたいと、評価方法の検討を行い、見直しもしています。コロナ禍によるカリキュラムの変更の影響があり、上昇した項目もあれば下降した項目もあります。本校では、常に最新の情報を取り込みながら教育の質を担保する取組みを行っています。

令和4年度に実施した評価結果をご覧ください。（3段階評価）

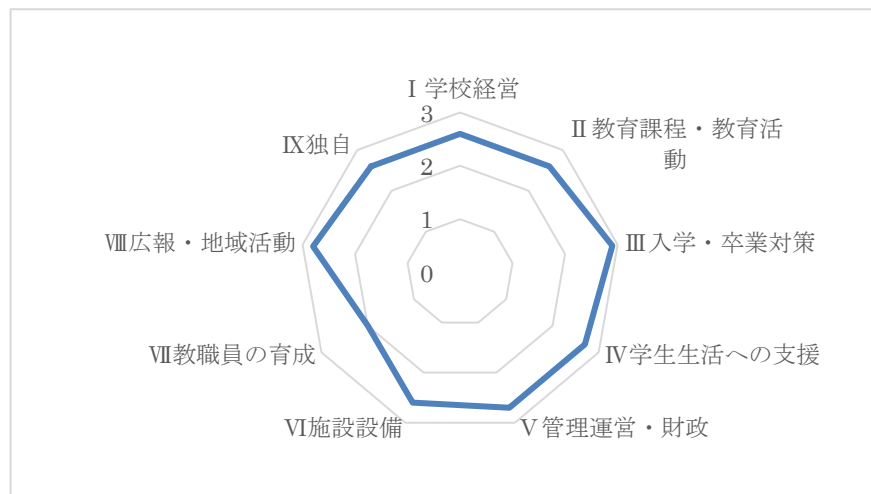


表1 学校自己評価 分野別結果

評価項目	評価概要	R3	R4
I 学校経営	ビジョンおよび組織目標(教育方針・重点目標・活動方針)を教職員間で共有し、チーム力を発揮し問題解決に当たっているか。	2.7	2.6
II 教育課程・教育活動	卒業時の到達目標を明示し、学習内容と一貫性があるか、評価の平等性・妥当性が保たれているか。学生による授業評価、教員の自己評価により授業の改善に努めているか。	2.5	2.6
III 入学・卒業対策	質の高い教育体制、細やかな支援体制に関する工夫を行っているか。 国試の合格率100%となるよう取り組んでいるか。	2.9	2.9
IV 学生生活への支援	進学、就職の進路に関して学生の相談に応じているか。経済的、精神的側面からの支援体制が整い、効果的に活用しているか。	2.9	2.7
V 管理運営・財政	予算計画、事業計画の策定、適正な予算の執行、管理を行っているか。 学生・教職員の人權・個人情報の保護の徹底、非常時の体制整備に努めているか。	2.8	2.7
VI 施設設備	施設設備の整備、教育目標達成のための設備教材が整っているか。 学生のための福利厚生設備、図書室や実習室は活用しやすいか。	2.7	2.6
VII 教職員の育成	課題を踏まえた職場研修、伝達講習の仕組み、臨床研修への支援、研究調査活動を行える体制を整えているか。 授業研究の実施、専門性についての支援体制を整えているか。	2	2
VIII 広報・地域活動	学校の周知のためのホームページ、携帯サイト等広告活動をしているか。地域への貢献・奉仕・連携の工夫を行っているか。	2.3	2.8
IX 独自	多職種連携教育を通して、チームとして保健医療福祉が連携していくシステムを学生時から理解し、活動していく工夫を行い、地域との連携を強化しているか。	2.6	2.6

## **I 自己評価**

本校では、学校運営上の工夫に努め、教育の質の向上を目指して、平成 29 年度より毎年自己点検・自己評価を実施し、評価の視点についても検討し、改善策に取り組んでいます。

## **2 評価方法**

自己評価は、カリキュラム評価にとどまらず学校運営全体の評価を実施し、重点的に取り組む必要のある課題を抽出するものです。会議において全員で評価を行います。

評価方法は、上記グラフ I～IX のとおり計 9 分野 42 項目について、3 「できている」 2 「不足がある」 1 「できていない」とし、3 段階評価で行っています。

## **3 評価結果**

令和 3 年度学校自己評価の結果は、上図のとおりである。また、評価の概要は次のとおりです。

### **I 「学校経営」 2.6**

新カリキュラム作成の動きに合わせてカリキュラム評価への認識が高まってきたため、中間評価の必要性など向上目標としていたものへの課題意識が高まってきました。

### **II 「教育課程・教育活動」 2.5**

令和 4 年度開始した新カリキュラムの編成と旧カリキュラムの同時進行という煩雑な業務の中、目標を意識してカリキュラム運営に取り組みました。

### **III 「入学・卒業対策」 2.9**

オープンキャンパスの工夫や進学説明会の参加に取り組んだ結果、全国的に 18 歳人口の減少や大学化の影響で受験生が減少している中、受験生の減少はありましたが入学生の確保はできました。また、卒業生の就職支援や国家試験の支援にも力を尽くし、国家試験は 16 年連続 100% 合格となり、達成感も得られたと考えます。

### **IV 「学生生活への支援」 2.7**

### **V 「管理運営・財政」 2.7**

### **VI 「施設・設備」 2.6**

この 3 項目については、1 ポイントずつ平均点数が下降しています。令和 4 年度には空調機が十分に効かなくなり、夏休みに大規模な空調工事があり、学内での演習など不便が多かったことやコロナ禍のゾーニングなどによる制約が大きく影響していると考えます。施設の老朽化に対応し学習環境の整備を計画的に実施できるよう努め、洋式トイレの増設、空調設備の修理、電球の LED 化などに対応しました。

### **VII 「教職員の育成」 2.0**

この項目は例年点数が低く、課題となっております。その要因として、各自の研鑽の取り組みよりも、コロナ禍の影響によるカリキュラムの変更への対応や新旧カリキュラムの運営に追われたこと、昨年度は職員の入れ替えもあり人員不足であったこともあげられると考えます。余裕を持った時間をもつことが大変困難な期間でした。今年度も引き続き、新旧カリキュラムの運営期間となり、煩雑な状況が予測されますが、新カリキュラムの共通理解を深めるためにも自己研鑽の時間をとる風土ができていくよう、令和 5 年度はより効果的に外の研修にも参加していく機会を保障していきたいと考えます。また、教員間の公開授業も新カリキュラムの運営のためには必要ですので、充実させていく必要があります。

## **VIII「広報・地域活動」2.8**

この項目は、大きくポイントを上げました。新カリキュラムの導入により、宝塚学Ⅰでは、学生全体で200をこえるボランティアに参加しました。学生たちが地域で活動できるような教育活動がみえてきたと考えます。

## **VIII「独自」2.6**

多職種連携教育については、宝塚市内に位置する甲子園大学との連携合同授業が令和5年度より始まります、新カリキュラムにのせて、共同開発していく予定です。

市立病院との基礎現任教育の連携も強化していければと考えます